

浜岡原子力発電所 4 号機 高経年化技術評価に伴う 原子炉内構造物の点検結果について

2019 年 8 月 9 日

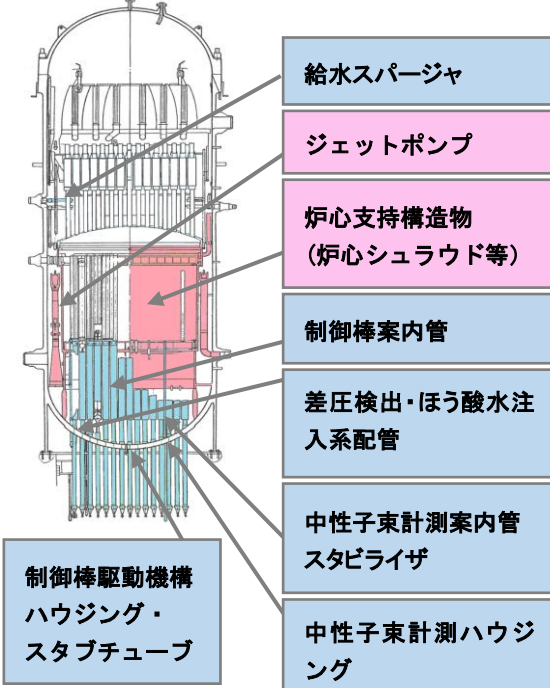
浜岡原子力発電所 4 号機は、2023 年に運転開始から 30 年を経過することから、「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則」に基づき、高経年化技術評価(注 1)を実施する必要があります。この度、高経年化技術評価に必要な原子炉内構造物の点検(2018 年 12 月～2019 年 8 月)を実施し、その結果を取りまとめたことから、お知らせします。

点検の結果、機器の健全性に影響を与える経年劣化は確認されませんでした。なお、機器の一部に確認されたひび割れやわずかな隙間についても、その影響を評価し、機器の健全性に影響がないことを確認しております。

今後、今回の点検で得られた知見を高経年化技術評価へ活用してまいります。

原子炉内構造物の点検結果(概要)

点検対象機器(注 2)	点検内容	点検結果
制御棒駆動機構 ハウジング・ スタブチューブ	カメラによる 目視点検	良
中性子束計測ハウジング		良
炉心支持構造物 (炉心シュラウド(注 3)等)		良*
ジェットポンプ(注 4)		良*
制御棒案内管		良
中性子束計測案内管 スタビライザ		良
差圧検出・ほう酸水注入系 配管		良
給水スパージャ		良



※機器の健全性に影響を与えないひび割れやわずかな隙間あり

注1 高経年化技術評価とは、運転開始から 30 年を経過するまでに、経年劣化事象の評価や耐震・耐津波評価をおこなった上、その後 10 年間の長期保守管理方針を策定し、保全活動を実施していくためのものです。なお、長期保守管理方針は、原子力規制委員会へ申請し、認可を受けることとなります。

注2 点検対象機器は、高経年化技術評価にあたって設備の経年変化を確認するため、当社や他社の原子力発電所における機器の不具合や経年変化の状況などを踏まえて、当社で点検対象を選定したものです。

注3 炉心シュラウドとは、原子炉内に装荷されている燃料集合体(炉心)を囲むように設置されている円筒状の機器で、原子炉内の冷却水の流れを分離する仕切板の役割を持ったものです。

注4 ジェットポンプとは、炉心内の燃料を冷却するため、原子炉の冷却水を炉心下部へ供給するポンプです。

以上